

## 第4回 下関市総合計画審議会

### 議事要旨

日 時 令和6年8月20日(火)午後1時30分～午後3時00分

場 所 下関市役所本庁舎5階大会議室

出席者 杉浦委員、斎藤委員、畚野委員、乙部委員、家根内委員、  
河村委員、西川委員、田邊委員、吉川委員、中原委員、  
秋枝委員、田中委員、周崎委員、五十嵐委員、伊藤委員、  
西本委員、松野委員、若林委員、上杉委員、藤澤委員、  
原田委員、岩見委員、堂脇委員、西村委員、阪本委員、  
橋本委員、板倉委員、井上委員、渡壁委員、宮本委員、  
日下委員、中西委員、中山委員、平岡委員  
穂山委員(web)

### 議題

- 1 基本構想の構成案の説明と7月全体会・各専門部会後の素案修正
- 2 目標指標(KGI/KPI)の修正
- 3 基本理念の説明
- 4 今後の予定

## Ⅰ 基本構想の構成案の説明と7月全体会・各専門部会後の素案修正

資料を用いて、事務局より説明。

(会長)

○人口動態のグラフがあるが、年齢3区分と折れ線の生産年齢人口の比率のグラフで、折れ線の比率に関しては凡例に「生産年齢人口比率」としていただきたい。

(事務局)

○承知した、修正して「比率」を記載する。

(委員)

○基本計画(Ⅰ)① 地域福祉活動の推進

「地域の社会福祉活動の中核的な役割を担う社会福祉協議会」について、「地域福祉」ではなく「地域の社会福祉活動」と記載した理由は。

(福祉部)

○検討の結果、以下に修正する。

「地域の社会福祉活動」⇒「地域福祉」

「地域における社会福祉」⇒「地域福祉」

(委員)

○市長から委嘱を受けた際、市民がワクワクする計画として欲しいとの話があったが、目標指標の目標値が、どれも実現可能な範囲で収まっている。20%を100%に目指すような目標としなければ意味がないのではないか。特に教育など目標値の低さが目立つ。

(事務局)

○ワクワクする計画となるよう、どこで表現するかを考えた中で、基本計画部分は一定の根拠を

示した設定となっており、5年10年の目標を設定する中でばらつきがあり、思い切って設定できていないものもある。

その中で、基本構想のキャッチコピーや10年後の下関の部分でワクワク感につながる大きな目標を示している。

個別の目標指標で弱気であるとの指摘もあるが、各部局が検討し少しでも大きな目標値としている。具体的な指標があればお示しいただきたい。

(委員)

○具体的には61ページの目標指標「高齢者が住み慣れた地域で生きがいをもって安心して生活を送っていると思う市民の割合」

基準値が21.8%、5年後も10年後も目標値が30%であり、あまりにも低く、やる気が感じられない。

また、64ページの目標指標「障害のある人、その家族にとって、日常や将来の生活に不安なく暮らしやすいと思う市民の割合」

基準値7.8%に対して、目標値は5年後10.3%、10年後12.8%となっている。この目標値を市民に示して、住みよいまちとなると考えているのか。あまりにやる気のない数字ではないだろうか。

(福祉部)

○61ページの指標については、現在部局でも見直しを検討中である。シルバープランの計画内で目標値を30%としているため、整合性を図ったものとなっている。

目標値30%が低いとの指摘だったが、市民実感調査の結果であり、調査の性格上、どちらでもない方の回答も過半数を占めていることから、手が届きそうな目標値を設定した。

障害についても同様に「どちらともいえない」の意見が53%を占めている状況で、この状況を踏まえた目標値となっている。目標値が少し低いとのご意見を踏まえて、10年後の目標を、全

体の 3 分の 1 を超える34%とする方向である。

(委員)

○市民は数値を見て下関のまちに希望をもつと考える。10年後も変わらない計画を提示することはありえない。高い目標を設定することで頑張ることにもつながる意識付けとなる。市民が希望を持てるものとして欲しい。

(杉浦会長)

○再度事務局で検討いただき、必要に応じて修正をお願いしたい。

(事務局)

○委員の意見を踏まえ、再度目標値の設定について再度検討を行い、定量・定性ともに各部署において見直しする。

(委員)

○1章1節7ページ目標指標「第1次産業(農業林業 水産業)総生産額」

基準値 67 億円に対して、目標値が下がっているのはなぜか。実態としては理解できるが。

(農林水産振興部)

○第1次産業は減少傾向であり、直近では約 60 億円。当初はこれを維持する予定で目標を設定したが、全体の基準値の整合性から 7 年間の平均となったことから、目標値を下げるように見えてしまった。

先ほどご指摘をいただいた点も踏まえ数値を検討し改める。

(会長)

○過去の推移がわかるようグラフで示すなど、見せ方を工夫されてもよいかもしれない。

## 2 目標指標 (KGI/KPI) の修正

資料を用いて、事務局より説明。

(委員)

### ○3 章3節(1)②家庭教育を支える組織の育成

主な取組に「下関市連合婦人会の活動支援」がなぜ入っているのか。放課後児童クラブやスポーツクラブなどでもっと関わっている団体はある。たくさん時間を割いているのは、通学路の見守りの方やコミュニティスクールやまちづくり協議会の方もいると思う。一つの団体ではなく、地域で様々な方がかかわっているような書きぶりが必要ではないか。

(教育部)

○地域の教育力の向上については、保護者や組織、学校、家庭、地域の連携強化など様々な形で表記している。連合婦人会については、家庭教育推進事業に関わっていただいているので、記載している。地域で様々な方がかかわっていただいているのは「地域のこどもを地域で育てる活動の促進」の部分で記載している。様々な組織があることは承知しているが、項目を分けた中で事業を依頼している観点で記載した。

## 3 基本理念の説明

基本理念案を、事務局および副会長より説明。

(委員)

○基本理念のボディーコピー部分、「年齢、性別国籍問わず・・・」と記載しているが、27 ページの目指すまちでは、「年齢問わず・・・」となっている理由はなにか。

(副会長)

○修正のポイントだと考えており「誰もが」などにするか検討する。

○自治体から出るコピーはキラキラしたもの、綺麗なものしか表現しないことがあると思うが、

そうならないように気をつけた。また話し言葉っぽい柔らかい表現や、実際に課題が顕在化している部分について、ちゃんと事実を認めた上で、どのようなアプローチが必要かという点を踏まえて寄り添い型で文章を作った。もちろん、細かい部分の言葉であったり、使うべきワードは、これから議論が必要だと考えている。

(委員)

○寛容性の要素を入れてはどうか。親世代が良かれと思ってやっていることが、若手にとっては窮屈に感じているのが、都市部に出る要因となっている。下関は若い世代にとって寛容なところがあると思う。世代間のギャップがないという意味で寛容をつかってはどうか。

(副会長)

○価値観にはよるが「だれにとっても」の意味は大事に検討していきたい。

(委員)

○「可能性を築くまち」のコンセプトに対して、具体事例が基本構想の28・29ページに現れるのか。ここに将来の姿が描かれるのであれば、「下関がもつ可能性」のように記載してもよいかもしれない。

(事務局)

○10年後の下関をイメージした希望的な将来像をビジュアルで示していきたいと考えている。とはいえ現実とかけ離れてもいけないが。

(副会長)

○構成のデザインも今後事務局と検討していきたい。

#### 4 今後の予定

以上